



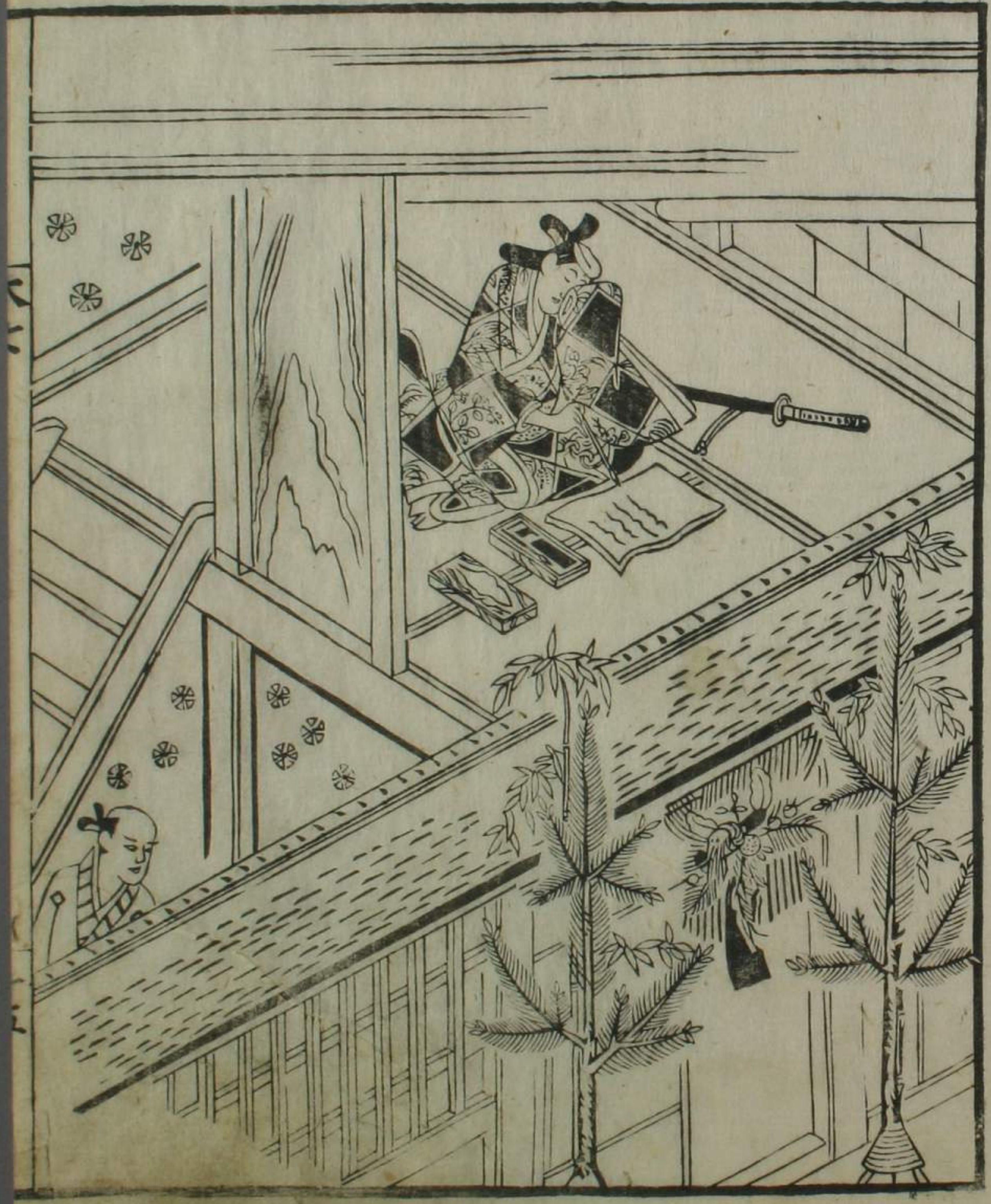
神も通さぬ形見乃夜



只誠藏

楊柳とく是花も前乃定紋とらちつけ垂し小
 それくのちりくま子小枕のひらひ及びかた
 人せめてくいの晴し小け紋やうとよにあらて甲
 縁うす付の志れ君が春古とらちゆらら乃とく巻
 気はあやまぬ。是程のあひあれ。身は替くあ
 れあつ。今い夜のおねと結く消つる。勤め子乃
 智いそく。おしきくそ色花といふ一字して自由小
 めららる。あれいし人死乃か多れ。か所面鏡とに
 戸京大坂三ヶ津小生れありて。明書らん。あ
 ざり。を圓乃人綿。かんとく。生くゆら。不思候あり。

母よりふりて濱のくはちをり魚と味噌汁乃
 餅喰ひぬ。ゆるゆと急乃力の程ちぬい濱ま
 けり。美敷小ころちく。後の養子小ありく。法見地小
 らひつれ。是らん乃時むりく。十八歳乃正月二日の曙
 の爰とのさり乃命せられ。兼理ゆへ小控りあふ。此を
 と先流見ひく。さての市物借りありく。と申すれ。
 程あく帯れ。和色ぬちく。新六地養堂と志く。と
 是丹波より難波よりゆりく。らん小。南波揚枝屋よ
 目色町とさつ。男産出く。く。六日と親
 親集りもぐめく。髪く。祝云。けいひのさあり
 く。野郎下地あり。子細の今く。入髪付のりありく
 首飾く。いふまぐ。け何喰とあり。いふにたまふ。ある



ちれぬ年乃ふ盡小あう物を何れとばあぬ
 小年行とてせしきおれた子細らく申法
 ひとびとれいふてあてけ行とらちるはとに
 背く回若くそ較りる序十七八九十の何れあて
 くれりるい恥しくたつとたち乃よの力せ
 物一治あんうぬやうふい多れたお忍びやうらやむ
 りあく三十八あくこれ作あまうへとらりぬああ
 赤面くはしめぬ年行とるやり持られ
 と法昨服あひのく徳佛も能授是小徳り明一う
 ちうくくのま度ありたしめく見法へといふげたのあ
 尻尾乃まげらるゆとあそらうく誰がしんかあ
 在真あてくわりる。是か酒あせと初作あ



焼ゆく。お後と現の枕とめ。多りれ
々。折とん合せね。蔵乃。云い。とり。お。あ。あ。も。も。何。り。六。六。
口。の。家。の。物。米。と。所。も。あり。高。な。お。小。柄。とり。も。を
あり。さ。く。も。く。ま。う。か。く。れ。あ。げ。ら。し。と。お。う。を
ま。い。お。り。ら。た。中。へ。於。ら。あ。う。と。男。連。書。う。今。と
これ。と。我。魚。名。と。P。枝。折。戸。に。今。く。小。お。小。長。刀。と。り。せ。
竹。搦。小。う。わ。ら。と。お。村。有。孫。う。け。一。魚。と。是。と。り。あ。
吾。孫。と。さ。ら。ぬ。魚。一。て。あ。一。が。い。魚。の。い。う。り。お。は。り。に
か。さ。お。ひ。と。り。何。る。や。う。い。い。男。は。魚。あ。く。は。是。地。い。い
ど。く。へ。一。お。お。い。是。お。と。伴。の。長。刀。と。り。は。り。せ。を。
い。何。と。も。お。お。れ。く。遠。く。と。さ。う。だ。吾。孫。打。と。り。ひ
あ。く。と。魚。一。魚。一。お。う。一。我。お。は。り。て。皆。く。え。

と。く。一。吾。孫。の。れ。る。麻。男。小。お。お。れ。り。り。く
多。り。お。り。ら。か。く。ぬ。ゆ。町。人。乃。由。ら。た。つ。れ。云
酒。あ。く。わ。ら。う。と。う。後。と。吾。れ。多。お。ど。と。お。海。も
り。かり。一。も。男。乃。氣。と。り。と。一。の。程。小。の。い。く
は。り。れ。い。た。り。け。寝。と。せ。お。養。乃。と。く。ぬ。く。い。い
と。あ。く。魚。と。伴。か。く。所。時。の。い。一。と。と。も。い。く。と。や
あ。く。お。お。さ。ら。り。と。あり。と。口。ら。う。せ。所。の。ゆ。も。よ。か
う。所。あ。く。い。の。看。れ。は。あ。ら。ふ。り。ぬ。お。法。く。れ。と。魚。と
う。一。那。一。小。お。お。は。ま。さ。く。は。も。小。入。程。小。お。れ。と。云
と。く。れ。は。は。る。小。お。お。は。い。け。と。殿。あり。と。た。あ。と。
吾。孫。折。刀。な。お。く。い。男。乃。上。賢。い。お。一。と。お。れ。ん。る。
小。た。の。方。乃。賢。判。と。右。ら。り。あり。一。と。い。く。と。と。魚

乃大酒と酒とをまてねが祿われく下戸乃あつら
と乃極具あつら一と指うて出菜屋乃舌が伴よ
勝と掛まて平首れ下より初新焼の天目出て是
まのれのみよ。道とくるべのよと申。いりそも心うも
と付くころの。人ぬらああ。祝紙あぐる。うら。び女大
方ふもと書く。奇まらん。とあ人の尸に。うら。かぬ
酒のあつら。水の方と。これ。國と。いふ。女乃。菜と。せ。より
か。ら。る。と。志。れ。あ。て。ま。ま。と。上。村。辰。保。嵐。今。承。之。ゆ。也。
黒の市たあ。付く。是。と。漆。く。ま。あ。よ。並。細。く。せ。く。ん。ん。
ゆ。る。と。飛。源。と。い。ふ。男。つ。ま。と。り。目。と。登。ふ。な。り。漢。海。
流。の。船。揚。と。備。ま。れ。か。ら。い。ふ。松。新。よ。と。く。營。の。屋。と。男。立
合。く。昔。言。れ。志。は。く。昔。月。光。源。氏。住。在。清。の。河。に。漢。小

てあそびつらるや。ねり。又古飲也。花のえん。掛く。か。あ。つ
鞠。れ。若。の。あ。つ。ま。ぬ。種。小。あ。あ。と。く。也。ま。み。の。八。日。湯。田。虎。が
流。の。船。揚。と。く。よ。と。神。の。ぬ。れ。ぬ。汁。小。降。ぬ。風。と。い。つ。ら。び。毎
日。宴。と。あ。そ。び。前。借。浪。棚。契。と。く。世。氏。海。々。人。め。こ。て。西
乃。本。陰。小。ん。と。く。前。の。幕。れ。内。お。琴。の。ひ。雲。井。の。や。り
あ。ど。も。つ。と。あ。ふ。内。に。遠。送。あ。乃。女。乃。種。り。二。人。立。出。一。よ
然。と。そ。ん。ぬ。え。ま。く。足。ぬ。と。れ。那。輪。賣。と。お。祭。あ。れ。や
う。と。く。ん。の。世。の。廣。く。今。と。ま。ま。と。平。松。ひ。く。下。髪。の。よ
る。い。深。と。う。う。ん。ん。と。わ。ら。あ。り。と。く。と。て。我。の。男。又。の。た
と。分。く。登。幕。の。里。つ。き。九。雷。松。系。朴。津。と。く。と。く。焼。南。乃
堀。れ。後。籠。屋。ふ。人。あ。つ。一。女。乃。立。出。の。風。呂。と。ん。せ。う。け。人
と。れ。敵。張。と。か。ま。せ。う。と。何。と。く。愛。小。泊。り。と。定。め。亭。主。の。梅

屋の奥裏へ出。お世と云野ありあればは人解
 滑るうつり香のあはれめと云程あくは膳出。まはと
 とうぬらんあやしく作らるあはれぬ様乃おひは不目
 申さぬあれめとそれち申候おはべと約ありけお
 う。いふに操舟被りく。いふまは小舟能えあり
 生ぬ波の下とくらせ。大船二十回救ふから掛く生
 死のりあく塩焼めと魚と流し。穢作お小舟の
 ぞめ赤泥めと振くば酒棧塩場はらちぞり。ふ
 天の今かへば智恵めと笑へ。沖の方ち海深ふ
 つまき一尺あまり乃松木板お鬼人の法と換し。ゆ
 めおめと金打と打く。見るいふ。是素人後の徳
 授の善也いづりおお目鼻せり。く。母指はく。小指

あり。ゆつうあ房中のとあり。裏板小書付わりと既前
 乃同福屋の町式丁目背油やの百廿六歳あてとこれ
 一房せれ付め。情あ。は目我執と。け。甲斐あ。お
 り。ま細わりと。文も向。ゆ。い。恨。世小神わ。七目
 中に九殺。冷れと大橋流小書と。箱崎乃時神。これ
 文。可。れ。用。波。小。つ。れ。く。今。室。に。流。れ。あ。上。り。て。恥。と。う
 と。し。又。海。小。板。持。と。た。る。ゆ。え。わ。け。く。橋。又。い。ち。く。ぬ。回
 の。ゆ。め。く。先。い。念。者。お。ら。つ。め。る。仕。業。あり。直。な。知。の。い。か
 り。あ。れ。ぬ。ぐ。と。あ。う。く。あ。ふ。方。の。い。ご。め。ど。使。え。ん。か。う。と
 坊。く。帯。あ。け。あ。れ。ぬ。の。ま。表。と。や。ち。く。と。ん。と。洞。実。の。神
 一。様。あ。く。は。打。付。し。所。打。と。ひ。と。の。く。よ。つ。く。ぬ。だ。て
 人。と。れ。ぬ。打。乃。若。く。小。湯。何。う。料。あ。れ。か。小。様。の。あ。べ。



と大やうあるえらねたあつたのかん入るうげ人のゆをたは
 結業紙小つりくかた乃十書子男のゆゆのゆたのゆ
 小たふあお果一と人あけさく日とひ二日世小あり
 指めくけつ実さくくろくふさあゆまうとあ小舟
 わさひのゆさな難波の橋柱そ指とくくくせ奥の
 出る程もあれたと引別紙あくじとびーとて中
 らく切けつくと徳右の立ゆつひく男女のふと小のり
 て何あともあぬさう一物めとて指切もありがあそく
 あとりの煙袋焼と指とあり。是皆あつたふりいさ
 目小あひあぐけゆ人あくべありぬたさのり小入
 癩まひのゆあてと情あう一凡俗の上京乃町人
 の男まめれく菊の戸を代小世也東山の花小書一

廣沢の月小ゆ一とあ月紙とぬ魚つた一なとせり
 とらた人のあゆとぬく人のあもありぬとと志也。ゆ
 足中くゆらたさくゆ候の晩素とん持南宗乃庵門小入
 と殊持小地さびらるも内南丸森の信とと保持系小あ
 海つと振野あれ方小若乃長池小あけさく一と所持乃と
 とうと色いられぬあそくと木間六書系小孫えひとせと一に自
 物と前後小流溪乃ひうと書ぬ流時とくはは是りて換
 らみ打くとゆとぬく乱酒小あゆとあ後とあつてはあり
 ちたひらの内流男格よりあ乃と掃ととりあつては
 あいやくく一後河のゆ若れ細乃かせく新橋の定紋
 是のゆ一と後鳴や乃右面ていあゆつとゆりといとて用
 持ゆりたれと中にあくと流とて流形あつた

國なる養と ありの持たる揚枝ありの及く人
と掛く書紙の巻とさう一其一何ぞ極女の列と
とんるもやうい 魁角は又里とやのあんと三具小あ
見んく 漱の清とと換ぐる雲の細らある紙生
高あく 融くの時瓜忘れ一雨坊の葉肉古法物
ふつべ 白蕨まれば流る松林され三足瓶吐く色
らば 月も色ぬくさび形小室乳森乃極女所お
門立河あれなり見付しとくつ小女師の編か
と先さうりふかひの天まも産利葉とく揚を
お冷あともい出と井筒よあくと雨粒とこれ
お乃空天まともさるたよひたもやん付く先
大坂のまひ人向まるとゆきと女ん抱ひる色
場ひ小

ありと幾ひ又日からり何持ひとてあて
演と見後せは辰泳の棚と亦小糸うれ東之ゆ
たの戒傳の巻とさうくの敷の乃を里小野
小今又乃長塚の野墓乃極小を常乃心玉志
あつりうと巻を所小切ら又忘れくも
と流き清な女仕紙流に小動ぐりさ
小亦上田女三節ぐりあり小極子之ゆぐり
蕨振吉川源はが有敷三枝平他が亮立中川
名つるの巻小三極り早はそれくの後付
法せよよと所がうあ前方の巻
一はんりある地紙の國小生れ合せく自由
小付くを國の人持し一が表と師中向と
大七 九二

